

# パイオニア株式会社様

## 「支援型」から「喚起型」のカーナビへ。 第三世代カーナビのコンセプトを具現化した 「スマートループドットログ」

カーナビは、私たちのカーライフを大きく変えた。ドライブ中のちょっとした寄り道や、目的地の変更なども簡単にでき、ドライブはより気軽なものになった。これまでドライバーの行動を「支援」する情報を提供してきたカーナビが、今、ドライバーの行動を「喚起」するメディアへと、変わろうとしている。

市販カーナビの国内シェアNO.1を誇るパイオニアの「カロツェリアサイバーナビ」。カーナビが誕生したのは今から約18年前。以来、基本機能の充実をめざした第一世代、DVDからHDDの導入、ミュージックサーバの設置など、エンタテインメントを創造した第二世代、さらに地デジへの対応を終え、カーナビは今、第三世代へと進化を遂げている。

第三世代のカーナビ像としてパイオニアが提唱するのが、ドライバーの一人ひとりが発信する情報を共有できる「スマートループ構想」だ。

NTTデータでは、このスマートループ構想を具現化するツールの一つ、地点情報共有型ブログシステム「スマートループドットログ」を開発。2007年にサービスを開始した同システムは、5月に発売された最新モデルコンセプトの中核として位置づけられている。「スマートループドットログ」では、ブログ記事中の地点情報を専用パソコンソフト「ナビスタジオVer.2.1」を使ってサイバーナビに転送し、実際のドライブで利用することもできる。

サイバーナビの開発を長年担当しているパイオニア株式会社 モバイルエンタテインメントビジネスグループ 事業企画部 ナビゲーション企画部 企画二課 副参事の矢野健一郎氏、同主事の内山和之氏、NTTデータ ビジネスイノベーション本部 ビジネス推進部 ITSビジネス企画室 課長代理 青拓郎、同 戸田暢彦に「スマートループドットログ」導入の経緯や今後の展開について話を聞いた。

### ハードディスク内に眠るプローブ情報を、ネットワークで活用する

——スマートループ構想はどのような経緯で始まったのですか？

矢野：2001年、ハードディスクを搭載したナビが発売されたころから、ハードディスクを用いてユーザ主体に何かできないかという思いを持っていました。ハードディスク搭載を機にユーザのプローブ情報（車の位置や移動速度・方角などの情報）がハードディスクに記録されるようになり、「お客さまがカーナビを使って集めた情報を眠らせておくのはもったいない」と考え、誕生したのが、ハードディスクを自宅に持ち込んで利用できる「ブレイクユニット」です。さらに今回、リビングキットとブロードバンド回線を利用し、ユーザが「ブレイクユニット」に蓄積した情報を収集することができるようになりました。青：それが「蓄積型プローブ」ですね。

矢野：はい。スマートループ構想では、この「蓄積型プローブ」と、携帯電話の通信機能を利用してユーザからリアルタイムなドライブ情報を収集する「リアルタイムプローブ」を採用することで、ドライブに関わるあらゆるシチュエーションで有効な情報提供を実現しています。さらに今回NTTデータに依頼した「スマートループドットログ」（以下「ドットログ」）によって、地点情報や経験をユーザがブログという形で公開する試みも始まりました。ユーザのリアルな経験に基づく知を共有することで、ドライブの進化のみならず、カーライフへの意識や関わり方までも変えていく。スマートループ構想は、カーナビにおけるWeb2.0といえるのです。

### 「サイバーナビ」のコンセプトを熟知していたNTTデータ

戸田：ブログを用いた情報共有という形を思いつかれたのはいつごろだったのですか？

#### パイオニア株式会社

本社：東京都目黒区目黒1丁目4番1号  
設立：1947年5月8日  
資本金：490億4,900万円(2007年3月末現在)  
売上高：連結 7,971億200万円  
(2007年3月期)  
従業員数：37,622名  
(連結ベース：2007年3月末現在)  
主な事業内容：ホームエレクトロニクス、カーエレクトロニクスを中心とした音響機器・映像機器製造業

矢野：ブログには、かなり以前から興味を持っていました。地点データを登録地点としてブログに貼り付けたら面白いだろうなと思って、企画書のようなものは書いていたのですが、その先に進めていなかったんです。社内で作れるものなのか、社外に依頼するならどこに頼めばいいのか、わからなかった。ちょうどそんな時、NTTデータのお二人から、「ドットログ」のご提案をいただいたんです。



パイオニア株式会社  
モバイルエンタテインメントビジネスグループ  
事業企画部 ナビゲーション企画部 企画二課  
(写真左)副参事 矢野 健一郎 氏  
(写真右)主事 内山 和之 氏

戸田：まさにジャストタイミングだったわけですね。

矢野：そうです。私たちが取り組もうと思っていた、まさにそのタイミングでご提案いただいたこと、さらにユーザ視点での提案をしてもらったことが、NTTデータにドットログの開発を依頼する大きな決め手になりました。

戸田：私自身、サイバーナビを長年愛用していたので、いちユーザとして、「こういう機能があればいいな」という提案をさせていただきました。それがユーザ視点という面でも役に立ったのなら嬉しいですね。

矢野：逆に戸田さんはどのようなきっかけで「ドットログ」のアイデアを発想されたんですか？

戸田：私はサイバーナビを使っていく中で「他のナビユーザといろいろな情報を共有できたら面白いだろうな」と思っていたんです。ただどうすればそれができるのか、手段が分からなかったんですね。プローブ情報をわざわざSDカードに保存して家に持ち帰ってパソコンに繋いでブログに落とす……なんて面倒くさいし、ナンセンスだな。そうではなくて、無意識のうちに情報が蓄積されていくような仕組みがないのかなと思っていた。そんな時、矢野さんとお会いして、地点情報がそのままサーバに上がってくる「蓄積型プローブ」のお話をうかがい、これとブログを組み合わせれば思い描いていた世界が実現出来るとひらめいたのです。

矢野：まさに必然が引き寄せた出会いという感じですね。「ドットログ」のシステム構築を他社に依頼していたら、まずサイバーナビのコンセプトを理解していただくことから始めなければいけなかったでしょう。すでにサイバーナビに精通していたお二人だったから、短時間での導入が可能になったんです。

青：ブログという形で、ユーザに権限を与えてしまうことを不安に思ったり悩まれたりする企業様も多いと思うのですが、そのあたりはいかがでしたか？

内山：確かにそうですね。BBSやブログというものに対しては警戒心がある一方で、常にお客さまのほうを向いて進めていきたいという気風もありましたので、ブログの可能性に期待感ももっていました。

戸田：最終的に「ドットログ」導入を決められた理由は何ですか？

矢野：戸田さんたちの熱意です(笑)。この

人たちなら信用できると思いました。NTTデータはブログを使ったコミュニティ構築をすでに多くの企業で行っているのです、そういった安心感もありましたね。

戸田：そう言っていただけると本当にありがたいです。

内山：ウェブ上には、たとえば、「情報生活ドットコム」のように地点情報を貼り付けるサービスがすでに存在し、多くの人が利用しています。サイバーナビのユーザがどう絡んでくるか、未知数ではありましたが、ニーズは必ずあるだろうという読みはありました。

矢野：私自身、自分でブログを始めてみて、Web2.0という形を実現させるのに、ブログは最適な方法だということを再認識したところがありましたので、「ドットログ」実現に向けて社内を説得してまわりました。

### 「出かけたくなる」情報を提供できるコミュニティへ

——「ドットログ」のサービスがスタートして約4ヶ月。現在はどのような状況ですか？

矢野：ブログの登録数も少しずつ増え、アクセス数もかなりアップしてきています。「ドットログ」では、ブログで得た地点情報を専用パソコンソフト「ナビスタジオVer.2.1」を使ってサイバーナビに転送し、実際のドライブで利用できるのが特徴ですが、実際にこの機能を使って、ドライブした感想なども「ドットログ」上に多数アップされています。

戸田：ドットログを通してユーザ同士が少しずつ繋がっていているようで嬉しいです。実際私もドットログで見つけた情報をも

とに出かけていった経験があります。地点情報やルートを知るというだけでなく、ドットログには「どこかに出かけてみよう」とドライバーの行動を喚起する力があるんだと感じます。恐らく他のユーザも同じようなことをなさっているのではないのでしょうか。



株式会社NTTデータ ビジネスイノベーション本部  
ビジネス推進部 ITSビジネス企画室  
(写真左)課長代理 青 拓郎  
(写真右)戸田 暢彦

矢野：それはまさにブログの力ですね。

青：ブログの記事を書いた人が利用した駐車場の正確な場所まで案内してくれるところもサイバーナビならではのですね。ドットログ上には、地点情報が役に立った、いい情報だったなど、その地点をダウンロードした人を評価することができるので、有益な情報を見分けるのに活用できるでしょう。

——今後、「ドットログ」を含め、スマートループ構想はどのような方向に進んでいくのでしょうか？

矢野：ユーザ間の情報共有、すなわち“知の共有”という概念を持ちこんだのは、今年発売された最新モデルからです。しかし、まだ「情報共有するとこんなにすごい世界がある」ということを示されていないと感じています。知の共有をさらにスタンダードなところまで持っていきたいという思いがありますね。

それからドライブの楽しみをもっと広げていきたいです。車に乗って出かけた後が楽しいのは当たり前のこと。それだけでなく、車に乗って出かける前の楽しみ、つまりどんどん出かけて行きたくなるようなツールや機能を付加していければと思っています。この部分において「ドットログ」ができる可能性はとても大きいはず。そのためにも「ドットログ」を使った新しい提案をどんどんしていきたいと考えています。

### スマートループドットログの概要



## 株式会社NTTデータ

ビジネスイノベーション本部 ビジネス推進部 ITSビジネス企画室  
TEL.050-5546-2437 FAX.03-5251-1031  
<http://www.nttdata.co.jp/services/casestudy/> (お客様事例)